

(別添)

日本国静岡市で開催された第28回APEC観光作業部会における
青少年交流と姉妹(友好)都市交流の促進についての共同声明(仮訳)
(2006年5月11日)

2006年5月10～11日に日本国静岡市で開催された第28回APEC観光作業部会会合では、地域間の連携促進のため、青少年交流・姉妹(友好)都市交流の重要性が強調された。

会合は、これまでの取組みについて議論し、この分野での活動のもたらす利益に一層大きな注目を与えるよう、メンバー・エコノミーに対して訴えた。その内容は次のとおりである。

- ―3月1～2日にベトナム・ハノイで開催された2006年第1回APEC高級実務者会合において、2006年のサブ・テーマとして「地域間の連携促進」を掲げ、優先分野として観光及び文化交流を通じてAPECメンバーの連携を強化することが合意されたこと
- ―修学旅行や青少年交流プログラムなど教育交流をはじめとする若年層の国際観光交流の拡大は、国際相互理解の増進に大きく役立ち、国際交流を増加させ、国際理解教育を促進し、国際交流を通じた地域の発展を強化するものであること
- ―柔軟な感受性をもつ青少年は、国際交流を経験する中で海外の文化、習慣及び伝統に触れて理解を深めることにより真に国際的な人材に育ち、自分自身が将来にわたり観光や仕事で繰り返し海外へ旅行するだけでなく、友人や家族をも世界へいざなうものであり、観光の観点からは、青少年の国際交流は中長期的な国際相互交流を育む基礎を形成するといえること
- ―姉妹(友好)都市提携は、文化、スポーツ、教育などの分野で様々な交流事業の契機となるものであり、これらの事業は市民参加による草の根レベルの交流の拡大に大きな役割を果たしているとともに、参加者に自らの地域コミュニティの活性化とその魅力を見つめ直す機会を与えていること

会合は、青少年交流及び姉妹(友好)都市交流の重要性を再確認し、これらの分野の観光交流を促進していくべきとの見解に至った。

会合は、今後、青少年交流及び姉妹(友好)都市交流などの草の根レベルの交流が、APEC域内における社会的・経済的連携の緊密化、相互理解と友好親善の深化、及び相互の人的交流の拡大に大きく寄与していくものとする。